

## 中国人民銀行/預金準備率引下げを発表

中国人民銀行（中央銀行。以下 PBOC）は 2019 年 1 月 4 日、同行 HP 上で金融機関の人民元預金準備率引下げを発表した。

### 1. 発表内容

- ・実体経済の更なる発展、商業銀行及び金融市場の流動性最適化、融資コスト低減を行うべく、金融機関の人民元預金準備率を 1.0% 引下げる。内、0.5% は 2019 年 1 月 15 日、0.5% は 1 月 25 日に実施する。また、2019 年第 1 四半期に満期を迎える MLF（※1）は継続しない。この措置で、春節前の資金流動性を安定させ、小規模企業や民営企業への継続的な支援を強化する。
- ・目下の中国経済は健全な発展を続け、合理的な範囲で運営されている。PBOC は安定的な金融政策を継続する。流動性が過剰にならない様に注意深く調整して合理的な流動性水準を維持し、信用貸出と社会融資規模を適正に拡大することで金融クオリティの発展供給側の構造改革に適した貨幣金融環境を創造する。

※1 期間 3 カ月を中心とした中銀貸出「Mid-term Lending Facility（中期借貸便利）」

### 2. QA 抜粋

今回の預金準備率引き下げによる資金供給効果は 1.5 兆元程度。新設した TMLF（※2）の操作と、2019 年第 1 四半期に満期を迎える MLF を継続しないことを勘案すれば、市場に放出される正味の長期資金は凡そ 0.8 兆元となる。

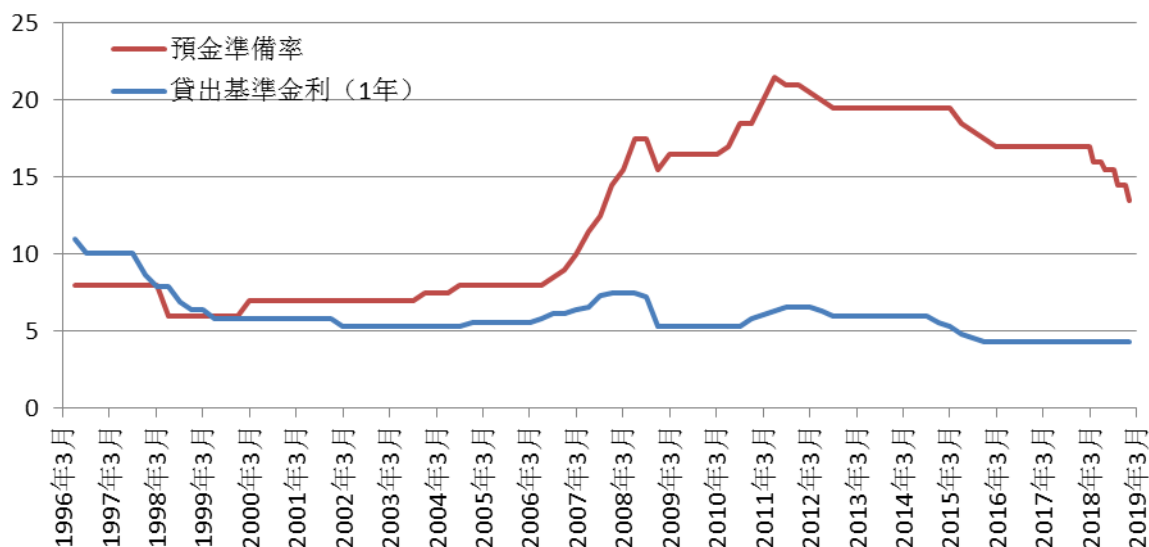
※2 零細企業と民営企業支援を目的とした中銀貸出「Targeted Mid-term Lending Facility（定向中期借貸便利）」

### 3. 所見

今回の預金準備率引き下げは、春節前の流動性管理だけではなく、経済の安定的な成長を支えると思われる。

ブルームバーグのデータによると、2019 年第 1 四半期には資金の流動性不足が比較的深刻となる見込み。先ず、1 月の不足額は約 4.28 兆元となる見込みであり、それ以外にも例年は季節的な要因で資金需要が徐々に増加する。また、今月は税金や公開市場リバースレポ、MLF の満期など資金に不足圧力がかかる。全体的にみると、PBOC は今年度第 1 四半期は引締めでも緩和でもなく、適度に中立的な金融政策を取るとと思われる。

【預金準備率と貸出基準金利（1年）の長期推移】（出典：Bloomberg）



作成：MUFG バンク(中国)有限公司 中国金融市場部 021-6888-1666 ex) 2910~2929

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなされるようお願い致します。当資料は信頼できる情報に基づき作成したのですが、その正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料は使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。尚、当資料の無断複製、複写、転送はご遠慮下さい。当方の都合で、本レポートの全部または一部を予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。